

# 道標ない旅

自分も人も大切に  
～思いやり  
・チャレンジ  
・しなやかな心～



<http://www.town.hayama.lg.jp/nagae>

◆◆ 第2回南郷中・長柄小合同運営協議会（コミュニティ・スクール）を開催しました。 ◆◆

7月7日、長柄小学校にて第2回運営協議会が開催されました。

(1) 両校からの報告に対して運営委員からあった質問・意見

- ①防犯カメラはどのように使われているのか。  
→防犯に役立つというより、何かあったときに記録として見返せるもの。誰が来たかは確認できる。
- ②職員アンケートを見ると、小中一貫教育・9年間の教育課程を繋げていこうという気運の高まりはまだないように見える。施設も分離型、その中で9年間つなげるように仕向けるのは難しいのではないか。  
→来年度の小中の校内研究を同じにし、同じ場所で話し合う機会がまずは必要。だが、簡単なことではない。  
→長柄小から見る、南郷中から見るお互いの学校は違う部分がある。場所を行き来することで、先生たちの意識も変わっていくのではないか。  
→学校運営協議会としては、両校の先生方が同じ研究テーマを掲げ、9年間の学びをつなげる一貫校に向けての話し合いが行われていくことを応援したい。
- ③旧道のガードレール設置が必要では？と思うがいかがか。  
→南郷中の自転車通学を考えると、設置は危険で、良い案とは思えない。逗葉新道脇の歩道を自転車通学で通れるようにしたら、初めて検討できるのではないか。  
→逗葉新道脇の歩道を自転車を通ったら、歩行者には危ない。旧道を通るようにしているのには意味があるのではないか。  
→難しいかもしれないが、新道脇歩道を時間制限で自転車を通れるようにするとか、自転車専用帯を設けるなど、働きかけて行くことも必要かもしれない。
- ④安全については、もっと親が責任を持つべきだ。何もかもが学校ではないはず。
- ⑤御霊神社（子どもたちがよく遊んでいるところ）に工事が入る予定。学校からも発信してほしい。
- ⑥南郷中前の歩道橋を直しているのは長柄小の業務員。長柄小は業務員のおかげでいろいろなところが改善されていて、大変助かっている。

(2) 地域活動推進委員からの報告に対する質問・意見

- ① FGC 活動（南郷中）を再開するに当たって、学校に協力してくださる支援団体を学校に代わって探した。その結果、12団体協力してくださることになった。活動内容のプレゼンを各団体に作成してもらい、プレゼンは教員が代行して、参加したい活動を生徒が選んだ。修学旅行の時期に合わせて実施して無事終了した。
- ②成果発表会には9つの団体が見学に来てくださった。
- ③従来の指導団体に加え、今回2つの新しい団体を開拓することが出来た。
- ④このほかの行事でも、地域の団体や個人に支援を仰ぎたい場面は出てくる。例えば長柄小学校の総合的な学習の時間に協力頂ける指導者や指導団体も今後は公募していきたい。  
→12団体協力してくれている。できれば繋げていきたいがコロナが心配。  
→この連絡事務を教員の代わりに代行して頂けるのは大変有難い。教員の負担軽減につながっている。

(3) 教育総務課からの行政説明

- ①「長柄小学校 40年経過 葉山の他の学校は50年経過」…コンクリートの建物の寿命は60年と言われている。先を見て計画を立てていかななくてはならない。  
子どもの数も昭和57年4000人 今は2600人 2035年には 2割減る  
葉山の取り巻く建物の環境 人口の関係からも施設について大きな視点で考え直す必要がある  
学校の学びは変わってきている。ビッグデータの時代。これからの学びは知識重視ではなくなる。総合的な学習の時間のように自分たちで探究していく学びが大切になる。  
これからの学校に必要な学校施設とはどういうものか。今までは教師が前（黒板側）に立って「教える」という考え方だったが、これからは教室に正面がなくなり、「教える」スタイルも消えるだろう  
学校を建てる際には地域の中のコミュニティーとして考える必要がある  
令和7年 町政100年 この時に葉山の教育についての計画を示していきたい

(4) プレストタイム（自由トーク）

- 学校の各教室にカメラは入れられないのか
- 防犯面はきちんと強化をしていかななくてはならない。○○委員の教室にカメラは大きすぎる話だが防犯は大切だ。  
★小中一貫教育をすることでどんないいことがあるのか。

→9年間の学びの積み上げをできる

→学年の区切りを6年・3年ではなく、より子どもの実態に合わせられる

教科担任制、教科の専門性を高められる

9年間の学びを通して、長柄（葉山）から素晴らしい人材を育成できる可能性がある

→小中一貫教育に望むもの、こんな事ができるだろうというのは学校だけで考えるのではなく地域も一緒に考えていくべき

○クラブ活動・部活動について、体育協会所属団体に案内が来ている。体育協会等からも力を注いでもらえるなら大きな話であり、地域一帯で子どもが育てられる

○これからの社会のなかで何を学んでいかななくてはいけないのか、例を挙げれば子どもは意味もわからず、ただただ算数を先生から教えられて勉強しているが、それにどんな意味があるのか先生も理解して伝えていくべきだと思う。これからの教育で必要なことをもって先生たちとも議論していきたいと思う。

◆◆7月14日、校長集会サイエンスショーを実施しました。◆◆

前回のサイエンスショーで、「空気には重さがある！」ことが明らかになりました。今回は、このことを深めて、空気中の浮力に迫ってみました。まずは、大きな天秤の両側には、90リットルゴミ袋がぶら下がって釣り合っています。この片側に、41gのおもりをぶら下げると、当然重い方に傾きます。「空気は1リットルで約1.3gの重さがあります。」そこで、ゴミ袋一杯に空気を詰め込んでみます。100g以上の空気が中に入ることになります。ふくらんだ100g以上の空気が入った袋を下げるとどうなるかが、問題の1問目です。

結果は児童の予想を大いに裏切る④の「かたむかない（つりあったまま）」です。なぜでしょう。

そこで登場するのが割と小さな水風船です。その中にヘリウムガスを入れてふくらますと、空気中で浮いていく風船が出来ます。「なぜうくのでしょうか」を出題しました。選択肢は2つ。①「ヘリウムをいれると、ふうせんがかるくなるからうく。」②「ヘリウムをいれるとふうせんはおもくなるけど、なぜかうく。」のどちらかを選んでもらいます。風船に水を入れても、砂をいれても、ゴミをいれても、ヘリウムをいれても、重さは空（から）の時より当然重くなります。

でも、大昔のアルキメデスが発見したことですが、押しのけたものの重さだけ浮く力をもらえるのです。浮く力（浮力）は、水でも空気でも「どけたもののおもさぶんだけもらえます」。ふくらます前の水風船は、空気をあまりどけていないので浮く力はとても小さなものです。写真を見れば分かりますが、しぼんだ状態の水風船は0.3gほどです。この風船がふくらんで空気をどかすと、空気から浮く力をもらいます。1リットル1.3gの空気ですから四分の一で（毎日飲んでいる牛乳パックよりちょっと大きくふくらますと）、0.325gの空気の重さがあります。入れたヘリウムは大変かるいので、総重量は0.32gほどです。でも浮く力が0.325gもらえるので、浮く力の方が大きいので、風船は空気中で浮けるようになります。

空気中で空気からの浮力がもらえている証拠に、今回も真空槽に入れて、真空ポンプで空気を吸い取ってみました。当然風船はふくらみますが、空気からの浮力がないので、風船は沈んでしまいます。空気を戻してあげると、再び風船は空気中で浮くようになります。実はこの実験、世界で初めて実演したのは私、益田孝彦です。「科学の鉄人」というサイエンスショーバトルで披露に成功し、「科学の鉄人」の称号を初めて手にした思い出の実験です。長柄小の皆さんに披露できて嬉しかったです。



【児童の感想より】

・わたしは、サイエンスショーをみて、いち番わかったことが、空気に重さがあることです。わたしは、おもさはさすがにないだろうとおもっていたのですが、校長先生が物的にせつめいしてくれたのでちゃんとした理由がわかったのでよかったです。これからも勉強になる、おもしろいサイエンスショーをつづけてください。ありがとうございます！（4年）

・いつも楽しいサイエンスショーありがとうございます。わたしは木よう日がきらいです。でも朝学校にきてサイエンスショーを見ると元気が出ます。これからもサイエンスショーをつづけてください。（4年）

・すごいためになる実験で楽しく見させて頂きました。予想とちがう結果もあってとても面白かったです。（6年）・・・などなど良い感想一杯でした。

◇◇ お休みや、退職される教員がいます。◇◇

おひさま級担任の 教諭が7月18日より産休に入ります。また、おなじくおひさま級の教諭は、療休からの回復が叶わず、7月31日をもって退職します。代替教諭については後日お知らせします。